

# 景況調査

報告書 NO. 21

平成15年 10月～12月 実績  
平成16年 1月～3月 見通し



蒲郡商工会議所  
中小企業相談所

# 平成15年度第3四半期(H15.10~12月)景況調査

1. 調査時点 平成16年1月  
 2. 調査対象  
 (1) 対象地区 蒲郡市内  
 (2) 対象(回答)企業 156[149企業、7団体 = 三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、

愛知県ホテル・旅館生活衛生同業組合蒲郡支部、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法 聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	55 (3)	15 (2)	24 (1)	34	17 (1)	11	156 (7)

( )は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前年同期比で見ると 17.9、前期(7~9月・ 23.4)と比較すると5.5ポイントの上昇、前期比で見ると 9.0、前期(7~9月・ 14.4)に比較すると5.4ポイントの上昇、いずれも改善の傾向が見られた。また、売上DI値についても、前期比で見ると5.8、前期(7~9月・ 12.4)と比較すると18.2ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。収益DI値は 14.7、前期(7~9月・ 20.0)と比較すると5.3ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。総合判断来期(H16.1~3月)見通しについては 25.6、前期(7~9月・ 8.9)に比較すると16.7ポイントの下降、悪化の傾向が見られる。

「製造業」のうち食料品は、年末の需要期にあるが消費停滞に加え、安価な海外製品の流入もあり、厳しさを増している。織物は、ジャカードカーテン、ドビーカーテンともに、仕事量は増加しており、また白生地織物も広幅については増加しており、先染織物については、ほとんど仕事がなく、少ロットである。漁網・ロープのうち、繊維ロープは、不要期にあたり生産量・出荷量とも減少。漁網は、需要の落ち込みが加速し競争も激化している。鉄工のうち、工作機械関係は、自動車業界の設備の更新、デジタル関連の需要から底上げして来ており、操業度も高い。自動車関連は、小型低価格車から大型車の販売も堅調で、そのため部品加工メーカーは、加工賃はまだまだ厳しいが、忙しくなってきた。木材は、シックハウス症候群対策を目的とする建築基準法の改正、JAS法の改正等を背景として、供給サイドは堅調に推移した。地元加工業者は、木材需要も減り低調である。化学・プラスチックのうち、化学工業は、為替の影響、輸送・原材料コスト高で厳しいがIT関連の一部は堅調である。プラスチック加工は、自動車向けは売上が増加している。「建設業」は、年度末へ向けての需要期に入り、受注が好転してきているが、受注競争は厳しい。「卸売業」のうち繊維卸は、産業資材関連・商品にバラツキがあるものの、全体的には荷動きが悪くなっている。寝装関連：来春夏物の一部デリバリーと1~3月へのバルク(大量)生産と活況を呈する時期であるが、取り組み先及び商品によって大きくバラツキが生じている。インテリア関連：カーテン市場も低迷していたが、やっと産地の活気が出てきた。全体に、前半と比べ上向き状態である。衣料：綿織物に代表される短繊維の産地にとって稼ぎ時期とも言えるシーズンに入ってきている。「小売業」は、ほとんどの個店では売上が減少している。年末年始を控えて大売出しを行っているところもあるが、厳しい。中心市街地活性化事業で空き店舗を使ったチャレンジショップ、福寿稲荷市(仮称)など企画中である。石油は、ガソリンの市況低迷、灯油の暖冬気配による販売不振と、厳しい状況が続いている。「サービス業」のうち旅館関係は、忘年会シーズンで忙しいが、例年、トヨタ自動車およびその関連企業の利用により安定した売上があるが、他地区への移動もあり、競争も厳しくなってきた。「運輸通信業」のうち旅客・貨物輸送・水運は、海運関係：例年では年度後半に輸出入量が増加するが、本年度はその兆しは無い。陸運関係：宅配貨物は、お歳暮で輸送増であり、一般貨物については、特定貨物が微増である。バス業界：観光シーズンのため収入・稼働とも増加している。乗合バスについては、ラゲーナ効果が好調であった。

設備投資状況は、全般的には低調だが、回復のきざしがあり、32事業所(47件)で設備投資が実施され、生産設備・車両運搬具・OA機器が上位にランクした。来期は37事業所(50件)が設備投資を計画されている。

経営上の問題点では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化が項目別・業種別で上位を占めていた。

当地区においては、依然としてデフレの長期化、雇用の停滞、個人消費の低調、設備投資の抑制、原材料価格の上昇、住宅着工数の低調、アメリカ経済の停滞、中国・アジア製品の輸入拡大、円高等の影響により、10~12月期の業況判断DI(全業種全体)は、水面下にあり、改善の傾向にあるが、来期見通しは厳しい。集客力を誇る「ラゲーナ蒲郡」を核とした観光事業、TMO(中心市街地活性化事業)、中小企業の経営支援、物づくりへの支援などで活性化を期待する。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

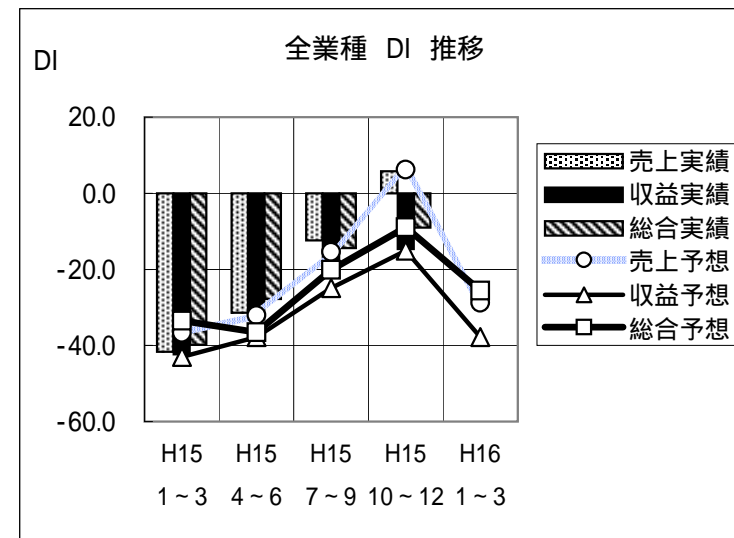
<全業種 各項目別期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年10月~12月)	前期比 (平成15年7月~9月)	来期見通し (平成16年1月~3月)	売上		収益		総合判断			
				前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し	
生産額・売上額	-19.9	5.8	-28.8	H14.10~12月実績	-31.0	2.6	-40.5	-19.0	-29.1	-14.6	-33.5
製品・商品在庫	-12.2	-13.5	-14.1	H15. 1~ 3月実績	-33.9	-41.7	-42.3	-42.3	-40.4	-39.8	-36.5
資金繰り	-13.5	-10.3	-20.5	H15. 4~ 6月実績	-37.3	-31.4	-34.9	-33.1	-26.6	-27.8	-20.1
採算(収益)	-24.4	-14.7	-37.8	H15. 7~ 9月実績	-25.5	-12.4	-30.3	-20.0	-23.4	-14.4	-8.9
従業員数(含む臨時・パート)	2.5	3.2	-3.8	H15.10~12月実績	-19.9	5.8	-24.4	-14.7	-17.9	-9.0	-25.6
貴社の業況(総合判断)	-17.9	-9.0	-25.6								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
製造業				(繊維卸)			
(食料品)				小売業			
(織物)				(飲食)			
(漁網・ロープ)				(石油等 その他小売)			
(鉄工)				サービス業			
(木材木製品)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物 輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	H15.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月見通し
売上	-41.7	-31.4	-12.4	5.8	-28.8
収益	-42.3	-33.1	-20.0	-14.7	-37.8
総合	-39.8	-27.8	-14.4	-9.0	-25.6

**DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数) について**  
 DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%) = 増加・良好などの割合 - 減少・悪化などの割合

(注) 生産額・売上額 : DI = (増加) - (減少)  
 製品・商品在庫 : DI = (減少) - (増加)  
 資金繰り : DI = (好転) - (悪化)

採算(収益) : DI = (上昇) - (下降)  
 従業員数 : DI = (不足) - (過剰)  
 業況(総合判断) : DI = (好転) - (悪化)

DIが0より大 → 景気上向き  
 DIが0 → 景気横ばい  
 DIが0より小 → 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上 DI 6 ~ 49% DI 5 ~ -5%

DI -6 ~ -49% DI -50%以下

6. 業種別報告

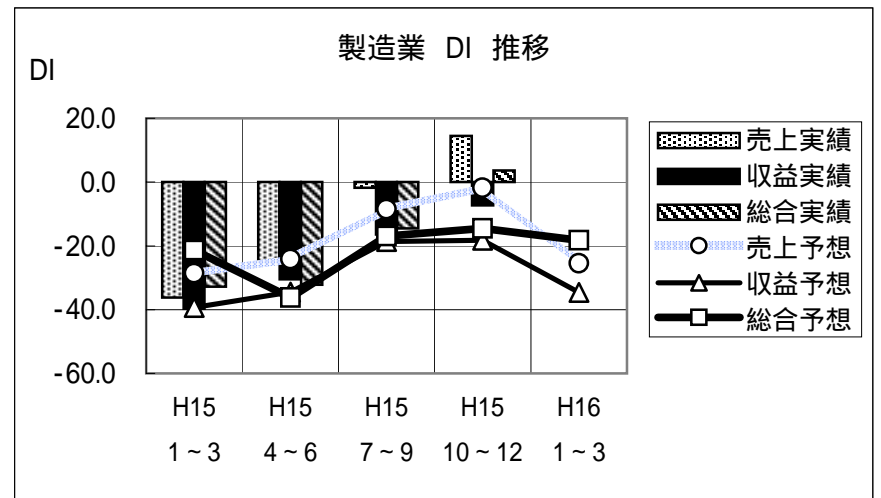
製造業

売上DI値は14.5、前期実績7～9月期( 1.8)に比して16.3ポイントの上昇。収益DI値は 7.3、前期実績7～9月期( 16.4)に比して9.1ポイントの上昇、総合判断DI値は3.6、前期実績7～9月期( 14.5)に比して18.1ポイントの上昇、いずれも改善傾向であった。見通しとしては、いずれも悪化のきざしである。

製造業

(DI 単位: %)

	前年同期比 (平成14年10月～12月)	前期比 (平成15年7月～9月)	来期見通し (平成16年1月～3月)
生産額・売上額	0.0	14.5	-25.5
製品・商品在庫	-10.9	-16.4	-14.6
資金繰り	-5.5	0.0	-12.7
採算(収益)	-10.9	-7.3	-34.6
従業員数(含む臨時・パート)	7.2	7.2	-3.6
貴社の業況(総合判断)	1.8	3.6	-18.2



< 業況判断DIの推移 >

	H15.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月見通し
売上	-36.2	-25.5	-1.8	14.5	-25.5
収益	-39.7	-30.5	-16.4	-7.3	-34.6
総合	-32.8	-32.2	-14.5	3.6	-18.2

[食料品]

売上は年末の需要期であるため、前期比ではDI値42.8と好転しているが、前年同期比ではDI値57.1と売上不振が続いている。収益は前年同期比DI値 42.8、前期比ではDI値 28.6と悪化傾向。製造コスト削減により採算性向上に努力しているが、小売業者からの値下げ要請などによる利幅圧迫で、深刻な状況にある。総合判断は前年同期比DI値 42.8、前期比ではDI値0.0、

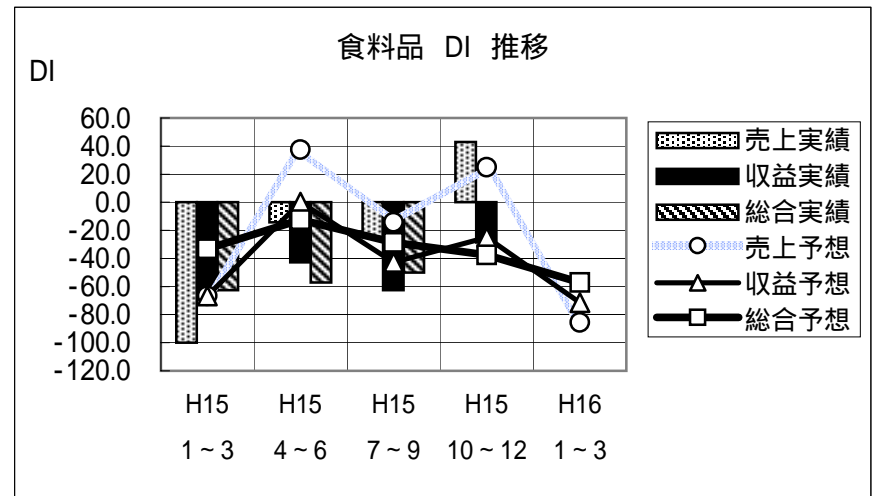
向こう3ヶ月の見通し

売上はDI値 85.7、収益はDI値 71.4、総合判断ではDI値 57.1。需要期を過ぎ、売上減少の見込み。消費停滞に加え、安価な海外製品の流入もあり、国内の原料加工産業にとって経営環境は厳しさを増している。(食品部会)

(食料品)

(DI 単位: %)

	前年同期比 (平成14年10月～12月)	前期比 (平成15年7月～9月)	来期見通し (平成16年1月～3月)
生産額・売上額	-57.1	42.8	-85.7
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	0.0	14.3	-14.3
採算(収益)	-42.8	-28.6	-71.4
従業員数(含む臨時・パート)	-28.6	-28.6	-42.9
貴社の業況(総合判断)	-42.8	0.0	-57.1



< 業況判断DIの推移 >

	H15.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月見通し
売上	-100.0	-14.3	-25.0	42.8	-85.7
収益	-62.5	-42.8	-62.5	-28.6	-71.4
総合	-62.5	-57.1	-50.0	0.0	-57.1

**[織物]**

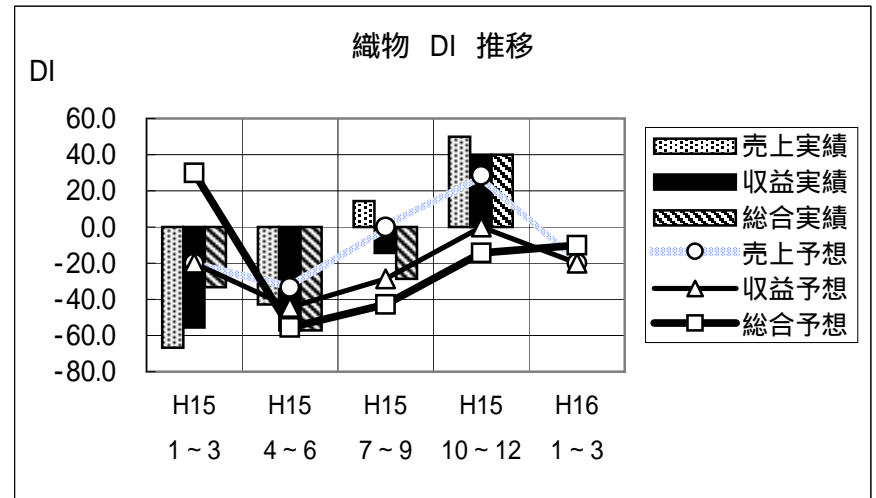
主力商品であるジャカードカーテンについては、全体に仕事量は増加し、経込(高級)はほぼ100%の稼働率であるが、並吊り(量販店向け)は50%である。ドビーカーテンについても、仕事量は多少増加しているが、まだ充分ではない状況である。白生地織物は、広幅については期近物中心に仕事は出ており稼働率は90%前後である。並幅については、仕事量が少なく減少傾向が続いている。先染織物は、殆んど仕事量が無いように、全てが少ロット物であることから、白生地織物を生産しているのが現状である。しかし、綿糸高の影響もあり、何れも採算面は厳しい状況が続いており、期近発注による短納期化・少ロット化が進み稼働率は悪くなっている。しかし、全般的には、回復傾向が見られる。

今後の見通し、ジャカードカーテンは、仕事量は多少減少するものと思われ、稼働率は60%程度に落ち込むものと思われる。ドビーカーテンも、同様の見込みである。白生地織物は、仕事量の増加は見込みみうすで、今期 横バイであれば上々と思われる。先染織物は、春夏物が主流であり仕事量の増加を期待しているが、現状と同じ状況が続くと思われる。採算面で非常に厳しい状況が続いている中で、円高で安定しており、このまま推移すれば、輸入が増加し、綿糸の高値と併せ工賃への圧迫が懸念されている。総体的に、長期に亘る業況不振の影響で資金繰りは非常に悪化しており、運転資金の新規借入れも難しい状況が続いている。(繊維部会)

**(織物)**

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年10月~12月)	前期比 (平成15年7月~9月)	来期見通し (平成16年1月~3月)
生産額・売上額	40.0	50.0	-20.0
製品・商品在庫	-20.0	-10.0	-10.0
資金繰り	10.0	20.0	0.0
採算(収益)	30.0	40.0	-20.0
従業員数(含む臨時・パート)	20.0	20.0	10.0
貴社の業況(総合判断)	40.0	40.0	-10.0



**< 業況判断DIの推移 >**

	H15.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月見通し
売上	-66.7	-42.8	14.3	50.0	-20.0
収益	-55.6	-57.1	-14.3	40.0	-20.0
総合	-33.3	-57.1	-28.6	40.0	-10.0

**[漁網・ロ-フ]**

繊維ローフ:水産関係の不需要期に当り、生産量・出荷量とも減少となった。同じく増勢であった輸入ものも減少に転じている。

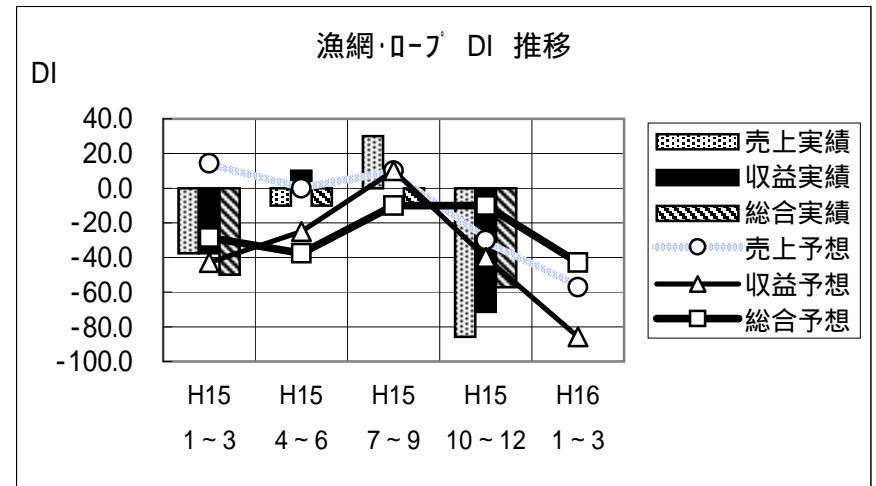
漁網:需要の落込みが加速。注文減の中、受注競争も激化している。

(繊維ローフ部会)

**(漁網・ロ-フ)**

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年10月~12月)	前期比 (平成15年7月~9月)	来期見通し (平成16年1月~3月)
生産額・売上額	-71.4	-85.7	-57.1
製品・商品在庫	-28.6	-57.1	-57.1
資金繰り	-28.6	0.0	-42.9
採算(収益)	-57.1	-71.4	-85.7
従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	-14.3	-28.6
貴社の業況(総合判断)	-42.9	-57.1	-42.9



**< 業況判断DIの推移 >**

	H15.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月見通し
売上	-37.5	-10.0	30.0	-85.7	-57.1
収益	-37.5	10.0	0.0	-71.4	-85.7
総合	-50.0	-10.0	-10.0	-57.1	-42.9

## [鉄工]

工作機械関係: 着実に回復傾向にあり、利益も出てきた。国内も自動車業界の設備の更新、デジタル関連の電機・精密業界の需要も底上げして来た。海外も中国など輸出向けに大きなウェイトをしめており、戦争の影響もある。部品加工業者は、工賃の改善のきざしもあり、平日残業・土日出勤も出てきており操業度も高い。

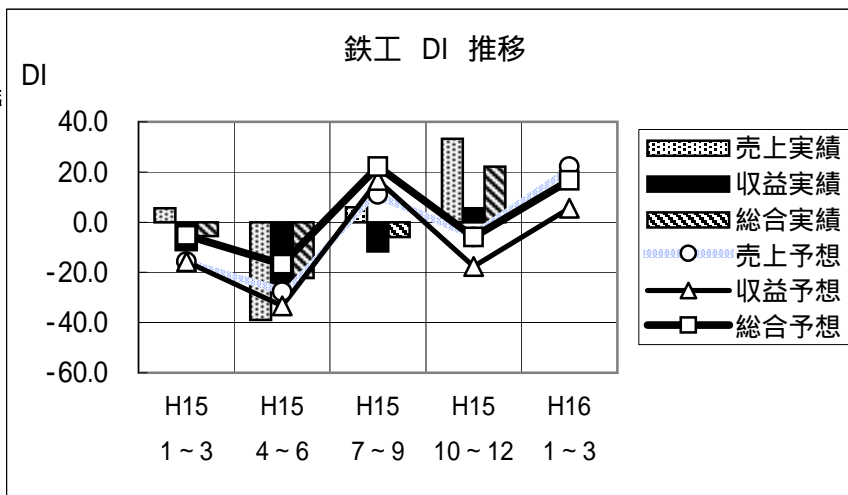
自動車部品関係: 例年前半より後半の方が強く、増えてきている。コンパクトカーの比率が高かったが大型、高額な車種も持ち直してきており、まだ工賃は厳しいが改善のところもある。依然として操業度は高い。

向こう3ヶ月の見通しは

液晶などデジタル関連は回復傾向にあり、中国関連、高級車などで発注の期待があるが、単価はまだ厳しい。蒲郡市外周辺に工場進出をした、また転出計画を発表したところもあり、市内での用地確保が難しい。(金属鉄工部会)

### (鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位: %)

	前年同期比 (平成14年10月～12月)	前期比 (平成15年7月～9月)	来期見通し (平成16年1月～3月)
生産額・売上額	44.4	33.3	22.2
製品・商品在庫	-11.1	-16.7	-11.1
資金繰り	-5.5	-11.1	0.0
採算(収益)	5.6	5.6	5.6
従業員数(含む臨時・パート)	27.8	22.2	22.2
貴社の業況(総合判断)	22.2	22.2	16.6



#### <業況判断DIの推移>

	H15.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月見通し
売上	5.6	-38.9	5.9	33.3	22.2
収益	-11.1	-27.8	-11.7	5.6	5.6
総合	-5.5	-22.2	-5.9	22.2	16.6

## [木材木製品]

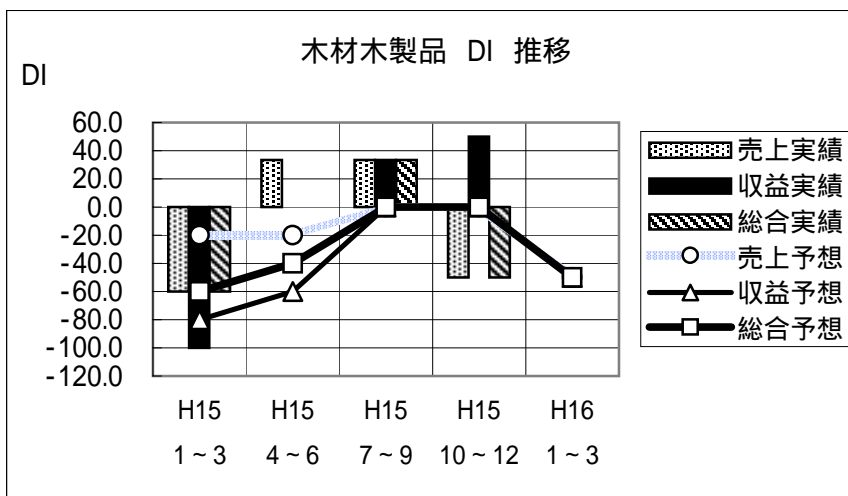
今年の新設住宅着工数は、ローン減税の駆け込み需要などで114万個台が予想される等、金利の先高感もあり9、10月と2ヶ月連続の増加と好調である。7月以降、建築基準法の改正、JAS法の改正などを背景として樹種によっては欠品状態になるなど木質素材業界の供給サイドは堅調な推移を辿った。ここに来て原材料面、木材・北洋材ともに針葉樹関係の産地価格は強含み、南洋材は船舶不足による船運賃の上昇なども価格に影響している。

地元加工業者は、市内のプレカットセンターより、大工なども材料を調達するようになり、また住宅着工も大手プレハブメーカーの住宅が増加し、木材需要も減り低調に推移している。

向こう3ヶ月の見通しは、海外合板メーカーのJAS対応も整い、輸入合板は、10月48万㎡と今年最大の入荷量で需給バランスが崩れ、市況は軟化気味である。季節的な不需要期を控え、輸入の動向次第では市況の大きな崩れが懸念される。(建設部会)

### (木材木製品) (DI 単位: %)

	前年同期比 (平成14年10月～12月)	前期比 (平成15年7月～9月)	来期見通し (平成16年1月～3月)
生産額・売上額	0.0	-50.0	-50.0
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	0.0	0.0	0.0
採算(収益)	0.0	50.0	-50.0
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	0.0	-50.0	-50.0



#### <業況判断DIの推移>

	H15.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月見通し
売上	-60.0	33.3	33.3	-50.0	-50.0
収益	-100.0	0.0	33.3	50.0	-50.0
総合	-60.0	0.0	33.3	-50.0	-50.0

## [化学・プラスチック]

化学工業：為替の影響や輸送・原材料費の増加により厳しい状況が続いているが、国内向けの電子情報関連の一部は、順調である。

プラスチック製造加工：包装資材などの一般汎用品は、安価な輸入品に押され受注が減少している。しかし自動車向けは、売上が増加している。

向こう3ヶ月の見通しは、今期と変わらず、厳しい状況が続くと思われる。(化学部会)

### (化学・プラスチック)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年10月～12月)	前期比 (平成15年7月～9月)	来期見通し (平成16年1月～3月)
生産額・売上額	-40.0	20.0	-20.0
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	0.0	0.0	0.0
採算(収益)	-40.0	-40.0	-40.0
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-20.0	0.0	0.0

## 建設業

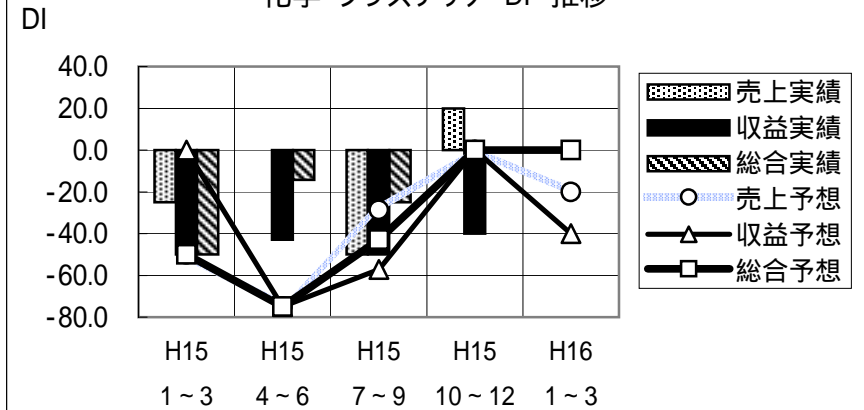
売上DI値は20.0、前期実績7～9月期(15.4)に比して35.4ポイントの上昇、収益DI値は6.7、前期実績7～9月期(15.4)に比して8.7ポイントの上昇、総合判断DI値は6.7、前期実績7～9月期(7.7)に比して1.0ポイントの下降、売上・収益は改善傾向である。見通しとしては、いずれも悪化傾向にある。公共工事は、例年、年度末へ向けての需要期に入り、受注が好転してきているが、地方公共団体の支出削減のムードは引き続き有り、受注競争は激しい。民間工事住宅工事については、低調に推移する中で、持ち直しの動きが一部見られるものの企業等からの建設需要は弱く、受注競争は激しい。向こう3ヶ月の見通しは、不透明な部分が多く低水準に推移していき、大幅な改善・回復は難しい状況にある。(建設部会)

### 建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年10月～12月)	前期比 (平成15年7月～9月)	来期見通し (平成16年1月～3月)
生産額・売上額	6.7	20.0	0.0
製品・商品在庫	-6.6	-6.6	-6.6
資金繰り	0.0	0.0	-13.3
採算(収益)	-6.6	-6.7	-26.7
従業員数(含む臨時・パート)	6.7	6.6	13.3
貴社の業況(総合判断)	-6.7	6.7	0.0

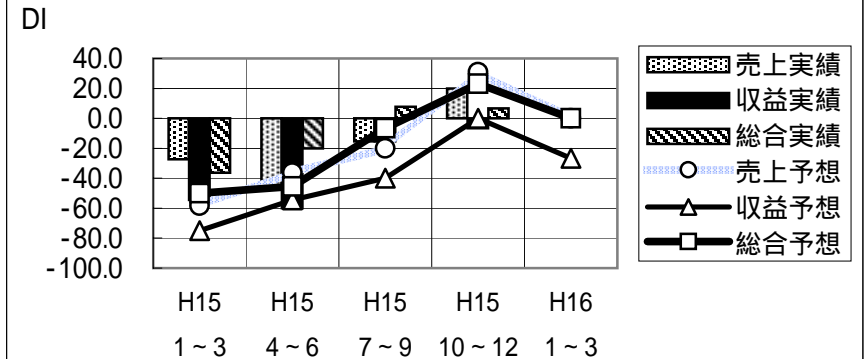
### 化学・プラスチック DI 推移



#### <業況判断DIの推移>

	H15.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月見通し
売上	-25.0	0.0	-50.0	20.0	-20.0
収益	-50.0	-42.9	-50.0	-40.0	-40.0
総合	-50.0	-14.3	-25.0	0.0	0.0

### 建設業 DI 推移



#### <業況判断DIの推移>

	H15.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月見通し
売上	-27.3	-46.7	-15.4	20.0	0.0
収益	-54.5	-60.0	-15.4	-6.7	-26.7
総合	-36.4	-20.0	7.7	6.7	0.0

## 卸売業

売上DI値は12.5、前期実績7～9月期(5.0)に比して7.5ポイントの上昇。収益DI値は 8.4、前期実績7～9月期(0.0)に比して8.4ポイントの下降、総合判断DI値は 8.3、前期実績7～9月期( 5.0)に比して3.3ポイントの下降と、収益・総合は悪化傾向が見られた。見通しとしては、いずれも悪化傾向である。

## 卸売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年10月～12月)	前期比 (平成15年7月～9月)	来期見通し (平成16年1月～3月)
生産額・売上額	-33.3	12.5	-16.7
製品・商品在庫	-45.8	-41.6	-33.4
資金繰り	-20.8	-16.6	-20.8
採算(収益)	-37.5	-8.4	-29.2
従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	-8.3	-12.5
貴社の業況(総合判断)	-37.5	-8.3	-25.0

### [繊維卸]

産業資材関連:バラツキが有るものの全体的には荷動きが悪くなっている。商品の動向がつかめないうちであるが、高品質を維持してスポット対応(必要な物・必要な時に・必要な量)を受け、生産・販売供給している。寝装関連:取り組み先および商品によって大きくバラツキがあり、ストレッチ素材は大変繁忙状態であるが、来春夏物展開は、慎重な客が多く、受注環境は満足するものではない。受注状況は、二重ガーゼ、ジャカード多重織、薄地の別注商品は良いが、中肉ファンシー商品は厳しい。インテリア関連:カーテン市場も低迷していたが、やっと産地の活気が出てきた。専門店向け(ブック帳販売品)商品は、マンション需要を中心に増加の見込まれる医療、福祉、リフォーム市場や環境問題がクローズアップされる中、新機能を付加した商品を充実させたものや、年度末の仕込みもあり、好調近しい感じである。量販店向け商品は、アジア地域からの低価格商品に押され長い低迷であったが、やっと上向きになってきた。テーブルクロスは、クリスマス、新年、春のブライダルシーズン用の需要が伸びて3m巾の生地を中心に動きも活発である。車両は、軽自動車、大衆車向けの織物需要が持ち直し傾向に有る。全体に、前半と比べ上向き状態である。

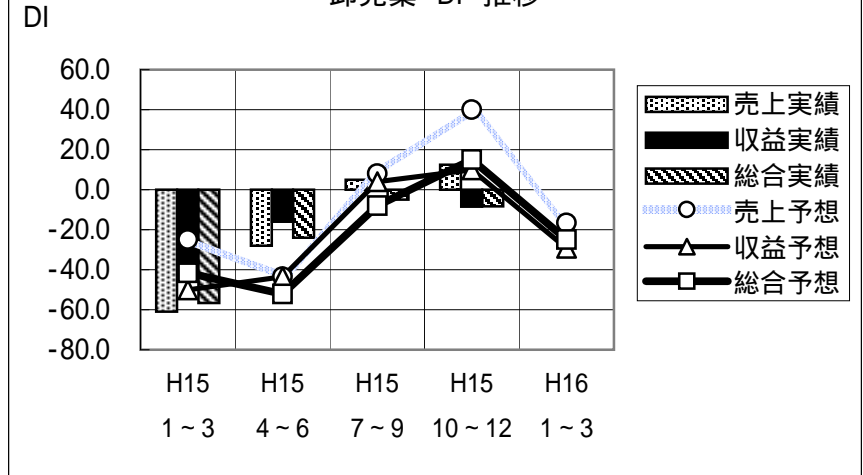
衣料関連:綿織物に代表される短繊維の産地にとって「稼ぎ時」とも言えるシーズンに入ってきている。カジュアル業界は、気候不順も影響してか急激に冷え込んでいるが、ユニクロ、GAPによる短納期での大量発注が今年も行われており、大手機場スペースから埋まりだし、年内スペースが満杯である。原料高による綿糸・綿布の高騰が、繊維業界を直撃しており、大きな転換期に差し掛かっている。(繊維部会)

### (繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年10月～12月)	前期比 (平成15年7月～9月)	来期見通し (平成16年1月～3月)
生産額・売上額	-35.0	15.0	-25.0
製品・商品在庫	-55.0	-50.0	-35.0
資金繰り	-20.0	-15.0	-20.0
採算(収益)	-40.0	-15.0	-35.0
従業員数(含む臨時・パート)	-15.0	-10.0	-15.0
貴社の業況(総合判断)	-35.0	-10.0	-25.0

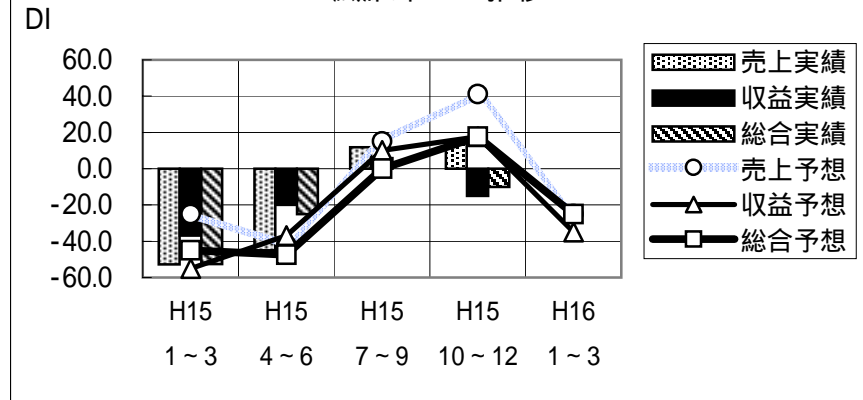
## 卸売業 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	H15.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月見通し
売上	-60.9	-28.0	5.0	12.5	-16.7
収益	-39.1	-16.0	0.0	-8.4	-29.2
総合	-56.6	-24.0	-5.0	-8.3	-25.0

## 繊維卸 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	H15.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月見通し
売上	-52.7	-45.0	11.8	15.0	-25.0
収益	-36.8	-20.0	5.9	-15.0	-35.0
総合	-52.6	-25.0	0.0	-10.0	-25.0

## 小売業

売上DI値は 35.3、前期実績7～9月期( 37.5)に比して2.2ポイントの上昇。収益DI値は 44.1、前期実績7～9月期( 43.7)に比して0.4ポイントの下降、総合判断DI値は 44.1、前期実績7～9月期( 37.5)に比して6.6ポイントの下降と、収益・総合では悪化傾向であった。見通しとしては、いずれも悪化傾向である。長引く不況により、ほとんどの個店では売上が減少している。年末年始を控えて大売出しを行っている所もあるが、厳しいのが現状である。

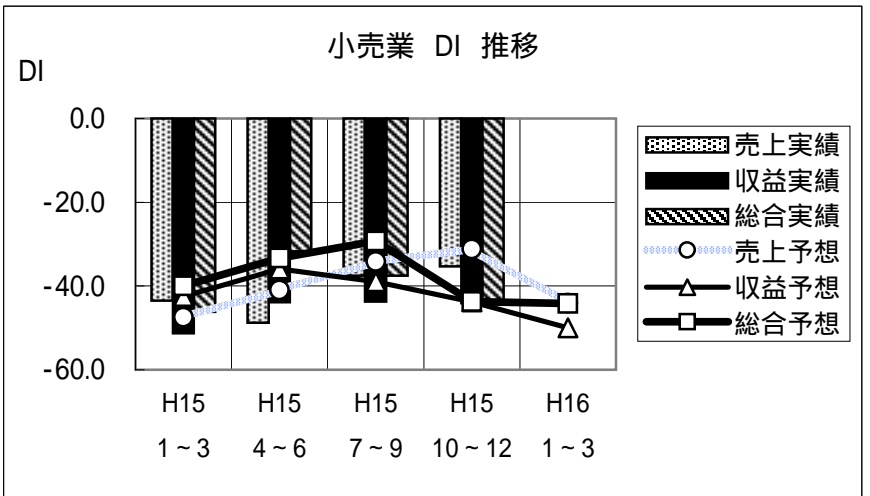
### 向こう3ヶ月の見通し

景気回復そして個人消費の伸びを期待する。カインズとサンヨネの大型店の出店が計画されており、埋立および整地工事・雇用確保も進んでおり、来年8月オープン予定である。地元商店街としては、TMO(中心市街地活性化)事業として、空き店舗を使ったチャレンジショップ、勝川の大弘法市を見本とする福寿稲荷市(仮称)など賑わいづくりを計画している。(商業部会)

## 小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年10月～12月)	前期比 (平成15年7月～9月)	来期見通し (平成16年1月～3月)
生産額・売上額	-53.0	-35.3	-44.1
製品・商品在庫	-3.0	-5.9	-11.8
資金繰り	-32.4	-32.4	-35.3
採算(収益)	-53.0	-44.1	-50.0
従業員数(含む臨時・パート)	3.0	0.0	-2.9
貴社の業況(総合判断)	-44.2	-44.1	-44.2



### <業況判断DIの推移>

	H15.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月見通し
売上	-43.5	-48.8	-37.5	-35.3	-44.1
収益	-51.3	-43.9	-43.7	-44.1	-50.0
総合	-46.2	-31.7	-37.5	-44.1	-44.2

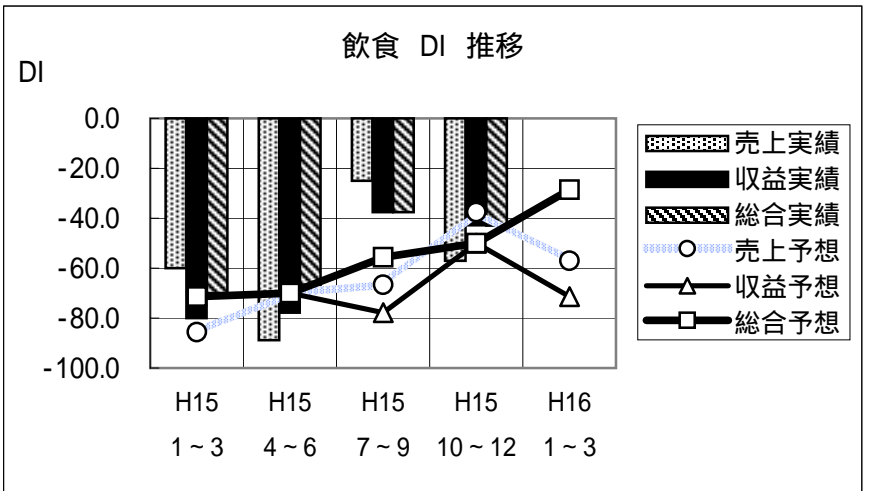
## [飲食]

10、11月は、相変わらず、12月の忘年会は予約状況からすると、昨年より若干の増加傾向であり、また米の不作で仕入コストが上昇する懸念があったが、今のところ僅かな値上がりには止まっており、ダメージは少ない。

### 向こう3ヶ月の見通し

今年度末の歓送迎会に期待している。また、消費税法の改正により、税額表示が義務付けられるが、新たな価格設定に頭を悩ましそうだ。

(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)



### <業況判断DIの推移>

	H15.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月見通し
売上	-60.0	-88.9	-25.0	-57.1	-57.1
収益	-80.0	-77.8	-37.5	-42.8	-71.4
総合	-70.0	-66.7	-37.5	-42.9	-28.6

## (飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年10月～12月)	前期比 (平成15年7月～9月)	来期見通し (平成16年1月～3月)
生産額・売上額	-71.4	-57.1	-57.1
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-42.9	-42.9	-57.1
採算(収益)	-57.1	-42.8	-71.4
従業員数(含む臨時・パート)	14.3	14.3	14.3
貴社の業況(総合判断)	-42.9	-42.9	-28.6

## [石油等その他小売]

ガソリンの市況低迷で、収益悪化に直面している業界としては、灯油商戦で収益を補いたいところだが、暖冬気配により11月の販売は、例年に比べ大幅な減少となり、灯油が売れる12月になっても販売不振が続いている状況。販売不振が、減収になるため暖冬気配に頭を痛めている。石油業界としては、実質的に利益口銭の圧迫が大きな要因となり、苦しい状況が続いている。

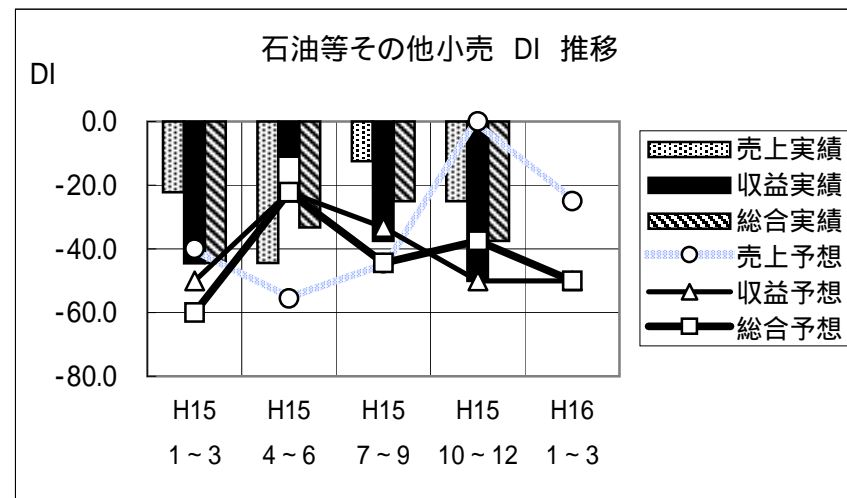
### 向こう3ヶ月の見通し

需要期のピークを控え、販売量と利益を確保できるかが、業界の再編及び淘汰をかけた業界全体としてポイントとなるが、暖冬気配で灯油商戦も数量、市況の両面で不振であり、依然として厳しい状況が続くと思われる。(エネルギー部会)

## (石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年10月～12月)	前期比 (平成15年7月～9月)	来期見通し (平成16年1月～3月)
生産額・売上額	-50.0	-25.0	-25.0
製品・商品在庫	-12.5	-12.5	0.0
資金繰り	-12.5	-12.5	-12.5
採算(収益)	-75.0	-50.0	-50.0
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-37.5	-37.5	-50.0



### < 業況判断DIの推移 >

	H15.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月見通し
売上	-22.2	-44.4	-12.5	-25.0	-25.0
収益	-44.5	-11.1	-37.5	-50.0	-50.0
総合	-44.4	-33.3	-25.0	-37.5	-50.0

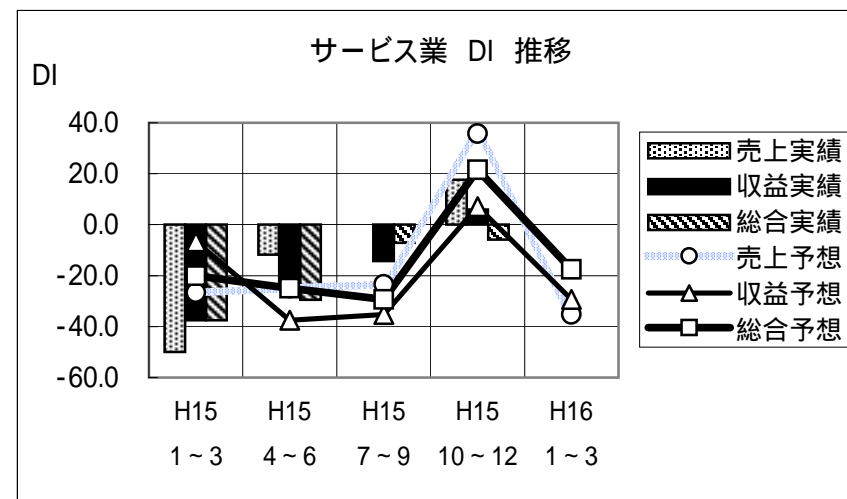
## サービス業

売上DI値は17.7、前期実績7~9月期(0.0)に比して17.7ポイントの上昇。収益DI値は5.9、前期実績7~9月期(14.3)に比して20.2ポイントの上昇、総合判断DI値は5.8、前期実績7~9月期(7.1)に比して1.3ポイントの上昇と、いずれも改善傾向であった。見通しとしては、いずれも悪化傾向である。

## サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年10月～12月)	前期比 (平成15年7月～9月)	来期見通し (平成16年1月～3月)
生産額・売上額	-23.5	17.7	-35.3
製品・商品在庫	0.0	0.0	-5.9
資金繰り	-5.8	-5.8	-23.5
採算(収益)	-23.5	5.9	-29.4
従業員数(含む臨時・パート)	5.9	11.8	0.0
貴社の業況(総合判断)	-23.5	-5.8	-17.6



### < 業況判断DIの推移 >

	H15.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月見通し
売上	-50.0	-11.8	0.0	17.7	-35.3
収益	-37.5	-23.6	-14.3	5.9	-29.4
総合	-37.5	-29.5	-7.1	-5.8	-17.6

**[旅館]**

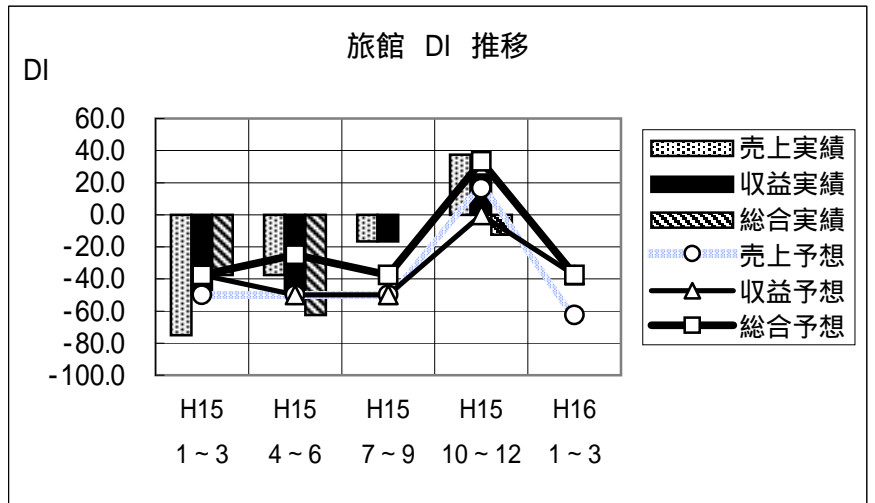
年間のトップシーズンではあるが、衆議院選挙による出控え現象、香嵐溪・鳳来寺山の紅葉などで当地区への観光客の減少等の影響もあり、団体客から個人客・少グループ客化と相まって売上の伸びは厳しい。また忘年会シーズンとして例年トヨタ自動車およびその関連企業の利用により安定した売上有るが、蒲郡地区より名古屋地区等他地区への移動もあり、客獲得のため競争も激しく、価格の下落、総消費単価の下落を招き、前年並みの売上を上げるのが精一杯である。

向こう3ヶ月の見通し豊川稲荷などへの初詣の団体客の減少もあり、地元県内客等近場の新年会、トヨタ自動車およびその関連企業の人事異動に伴う歓送迎会客をターゲットに集客を図る。ただし、4月よりの館山寺温泉近郊における花博開催の直前ということもあり、出控え厳しい状況となりそうだ。業界としては、我が国経済の回復が本物であることを期待したい。(観光部会)

**(旅館)**

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年10月～12月)	前期比 (平成15年7月～9月)	来期見通し (平成16年1月～3月)
生産額・売上額	-25.0	37.5	-62.5
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-12.5	0.0	-50.0
採算(収益)	-12.5	25.0	-37.5
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-12.5
貴社の業況(総合判断)	-12.5	-12.5	-37.5



<業況判断DIの推移>

	H15.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月見通し
売上	-75.0	-37.5	-16.6	37.5	-62.5
収益	-50.0	-50.0	-16.7	25.0	-37.5
総合	-37.5	-62.5	0.0	-12.5	-37.5

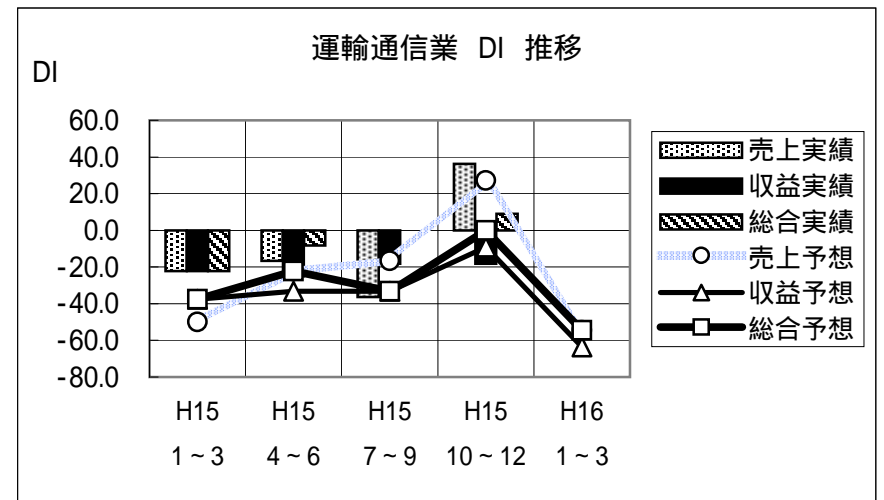
**運輸通信業**

売上DI値は36.3、前期実績7～9月期(36.3)に比して72.6ポイントの上昇。収益DI値は18.2、前期実績7～9月期(18.2)に比して同値、総合判断DI値は9.1、前期実績7～9月期(0.0)に比して9.1ポイントの上昇と、売上・総合とも改善傾向にある。見通しとしては、いずれも悪化傾向にある。

**運輸通信業**

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年10月～12月)	前期比 (平成15年7月～9月)	来期見通し (平成16年1月～3月)
生産額・売上額	-18.1	36.3	-54.5
製品・商品在庫	0.0	9.1	0.0
資金繰り	-9.1	0.0	-18.2
採算(収益)	0.0	-18.2	-63.6
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-18.2
貴社の業況(総合判断)	0.0	9.1	-54.5



<業況判断DIの推移>

	H15.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H16.1～3月見通し
売上	-22.3	-16.7	-36.3	36.3	-54.5
収益	-22.2	-25.0	-18.2	-18.2	-63.6
総合	-22.2	-8.3	0.0	9.1	-54.5

**[旅客・貨物輸送・水運]**

海運関係: 例年では年度後半に、輸出入量が増加するが、本年度はその兆しはない。  
 陸運関係: 貨物量については、年末の繁忙期に入るわけであるが前期に比べ微増である。宅配貨物は、お歳暮商品の輸送増、一般貨物については特定貨物(好況といわれている産業)について微増であるが、全般で見ると余り変化はない。業界の状況は、環境問題、トレーラーの総重量の問題、燃料単価の問題等われわれ業界にとって厳しい状況が続く。今後の見通し、年が変わってからの状況については、見通しは立たないものの一般的に言われている景気の回復は徐々にではあるが回復傾向にあると期待する。業界にとって、目新しい好条件は無く増収にはつながらないように思う。  
 バス業界関係: 観光シーズンのため収入・稼働とも大幅に増加した。ただし、前年同期と比べると合併のため収入・稼働とも落ち込んでいる。乗合バスについては、依然ラグーナが好調で、前年とほぼ横バイの状況である。

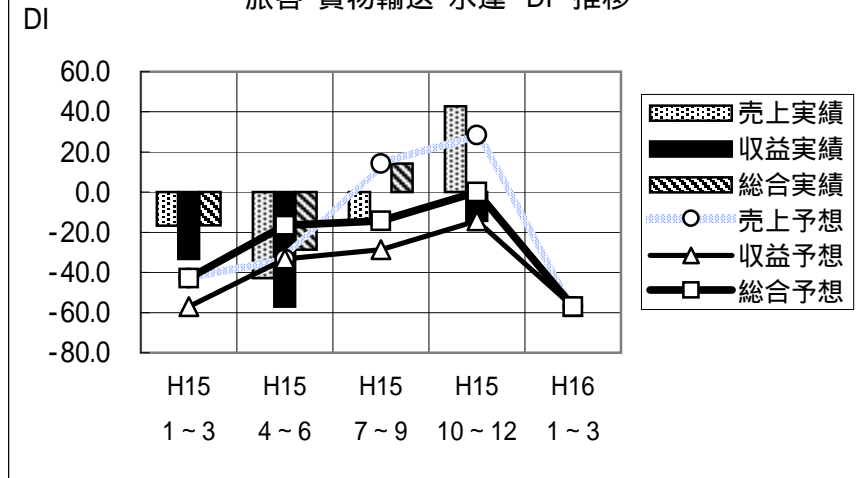
(運輸交通港湾部会)

**(旅客・貨物輸送・水運)**

(DI 単位: %)

	前年同期比 (平成14年10月～12月)	前期比 (平成15年7月～9月)	来期見通し (平成16年1月～3月)
生産額・売上額	-28.5	42.8	-57.1
製品・商品在庫	0.0	14.3	0.0
資金繰り	0.0	14.3	-14.3
採算(収益)	-14.2	-14.3	-57.1
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-28.6
貴社の業況(総合判断)	-28.6	0.0	-57.1

旅客・貨物輸送・水運 DI 推移

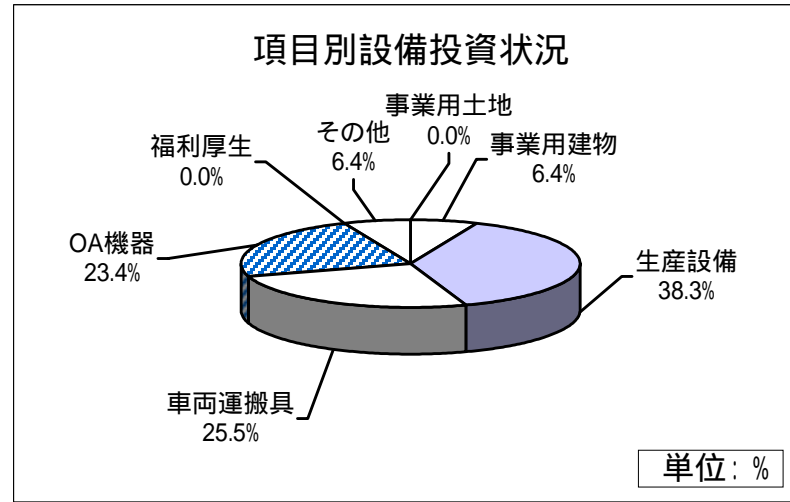
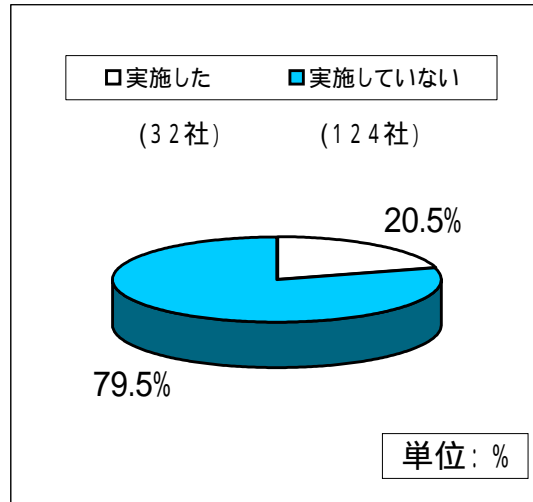


< 業況判断DIの推移 >

	H15.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H16.1~3月見通し
売上	-16.7	-42.8	-14.3	42.8	-57.1
収益	-33.3	-57.1	0.0	-14.3	-57.1
総合	-16.6	-28.6	14.3	0.0	-57.1

## 7. 設備投資動向

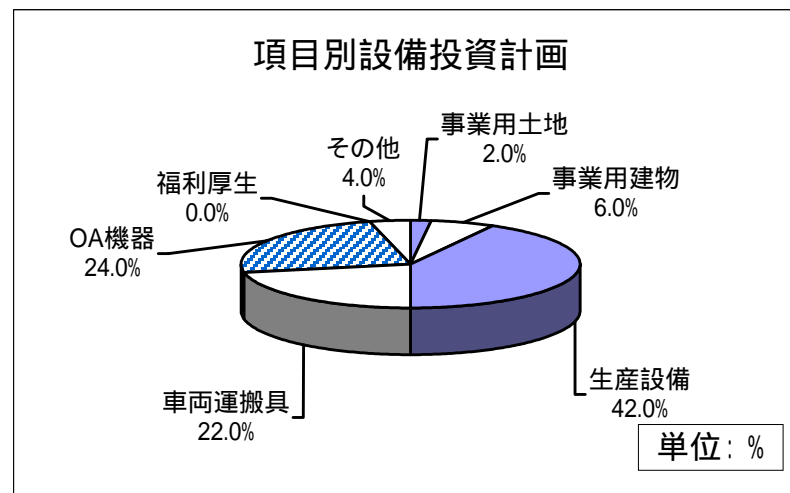
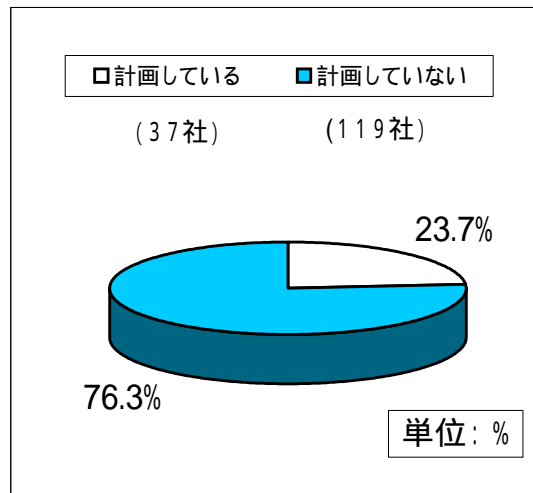
< 今期(H15.10~12月)設備投資実施状況 全業種 >



・10~12月期に設備投資を実施した企業は、32社(20.5%)あり、項目別には47件ある。そのうち生産設備(38.3%)、車両運搬具(25.5%)、OA機器(23.4%)に投資された。

・1~3月期に設備投資計画のある企業は、37社(23.7%)あり、項目別には50件ある。そのうち、生産設備(42.0%)、OA機器(24.0%)、車両運搬具(22.0%)の投資計画である。

< 来期(H16.1~3月)設備計画 全業種 >



設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	0	1
事業用建物	3	3
生産設備	18	21
車両運搬具	12	11
OA機器	11	12
福利厚生	0	0
その他	3	2
計	47	50

(単位:件)

今期(H15.10~12月)、来期(H16.1~3月)設備投資実施、計画動向

	(単位:事業所)						
	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サ-ビス業	運輸通信業
1. 今期(H15.10~12月)	32	20	1	3	3	2	3
2. 来期(H16.1~3月)	37	20	2	5	1	4	5

## 8. 経営上の問題点

### 項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 156 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	107 68.6%
2	利幅の縮小	93 59.6%
3	競争激化	80 51.3%
4	販売納入先からの値下げ要請	27 17.3%
5	消費者ニーズの変化の対応	25 16.0%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

・項目別経営上の問題点は、前回と比べ順位は同じである。

・業種別経営上の問題点は、全業種とも上位に“売上の停滞・減少”、“利幅の縮小”、“競争の激化”をあげている。特に3業種が1位に“売上の停滞・減少”をあげていた。

### 業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業	利幅の縮小 55社	売上の停滞・減少 34社 61.8%	競争激化 23社 41.8%
建設業	利幅の縮小 15社	競争激化 12社 80.0%	売上の停滞・減少 10社 66.7%
卸売業	売上の停滞・減少 24社	利幅の縮小 12社 50.0%	競争激化 8社 33.3%
小売業	売上の停滞・減少 34社	競争激化 18社 52.9%	利幅の縮小 18社 52.9%
サービス業	売上の停滞・減少 17社	競争激化 11社 64.7%	利幅の縮小 10社 58.8%
運輸通信業	競争激化 11社	売上の停滞・減少 7社 63.6%	利幅の縮小 5社 45.5%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

## 付帯調査(地域デ - タ)

番号	調査項目	単位	H16.1報告	基準日	H15.10報告	基準日	H15.7報告	基準日	参照資料
1	人口	人	81,991	H16.1.1	82,004	H15.10.1	81,938	H15.7.1	市民課住民基本台帳
2	世帯数	世帯	27,100	H16.1.1	27,050	H15.10.1	27,006	H15.7.1	〃
3	15才～65才生産人口	人	54,612	H16.1.1	54,731	H15.10.1	54,825	H15.7.1	市民課
4	外国人登録者数	人	1,339	H15.12.31	1,246	H15.10.1	1,225	H15.7.1	〃
5	建築確認届出件数	件	75	H15.10月～11月	133	H15.7～9月	138	H15.4～6月	建築住宅課受付件数(別紙参照)
6	全国完全失業率	%	5.2	H15.11月	5.1	H15.8月	5.4	H15.5月	総務省(別紙参照)
	愛知県完全失業率	%	4.4	H15.7～9月	3.8	H15.4～6月	3.8	H15.1～3月	総務省(愛知県産業労働総務課より)
7	全国有効求人倍率	倍	0.74	H15.11月	0.63	H15.8月	0.61	H15.5月	総務省(別紙参照)
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.79	H15.11月	0.58	H15.8月	0.47	H15.5月	蒲郡公共職業安定所(業務月報より)

蒲郡管内有効求人倍率

0.83

16.2

# 全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除)前年比	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 前期比(%)年率	消費支出 (全国勤労者)前年比%	新車新規登録届出数 (乗用車 季調・万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515	3.4	1.0	485.1
1997年度	236	3.5	0.69	3.9	1,341,347	520	0.2	0.2	419.0
1998年度	平均 294	4.3	0.5	18.6	1,179,536	514	0.8	0.8	414.3
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	510	1.9	1.8	418.5
2000年度	320	4.7	0.62	16.6	1,213,157	515	3.2	1.2	425.8
2001年度	348	5.2	0.56	12.6	1,173,170	500	1.2	3.4	429.5
2002年1月	344	5.3	0.51	22.2	84,196			0.9	28.1
2月	356	5.3	0.50	16.1	85,775			5.6	39.4
3月	379	5.2	0.51	22.0	88,865	497	2.0	2.5	58.5
4月	375	5.2	0.52	17.9	98,924			0.6	31.1
5月	375	5.4	0.53	16.6	106,110			2.7	32.6
6月	368	5.4	0.53	7.6	101,502	497	4.2	2.0	38.5
7月	352	5.4	0.54	5.8	96,245			0.5	40.3
8月	361	5.4	0.54	20.3	97,653			0.9	28.3
9月	365	5.4	0.55	2.7	97,238	500	3.5	4.5	42.9
10月	362	5.5	0.56	1.9	103,567			1.0	34.3
11月	338	5.3	0.57	7.2	98,664			2.3	36.5
12月	331	5.3	0.59	0.3	92,184	497	1.8	1.1	33.7
2003年1月	357	5.5	0.60	18.8	82,770			2.0	29.4
2月	349	5.2	0.61	1.4	83,399			1.3	41.4
3月	384	5.4	0.60	11.7	87,297	496	1.5	2.6	64.4
4月	385	5.4	0.60	4.3	100,276			1.2	29.0
5月	375	5.4	0.61	12.2	97,970			1.1	32.3
6月	361	5.3	0.61	12.1	115,081	*497	*2.4	1.1	37.2
7月	342	5.3	0.62	6.1	98,718			4.2	40.0
8月	333	5.1	0.63	12.2	92,406			0.6	26.7
9月	346	5.1	0.66	0.6	98,369	*498	*1.4	2.0	42.4
10月	343	5.2	0.70	23.1	104,572			0.9	35.3
11月	330	5.2	0.74						34.0
12月									*33.8

(総務省)

(内閣府)

(国土交通省)

\*は速報値(内閣府)

(総務省)(日本自動車販売協会連合会)